



・ 今回のファッションショーを通してクラスがより一層団結したと感じました。準備をする過程で、みんなの意見をまとめてくれる子や、前に出ていなくても陰でフォローしてくれる子。忙しいときに周りの子のために気遣いをしてくれる子など、自分のためではなく全体のために動いてくれる子が何人もいて、心から尊敬しました。意見がくい違ったり、もめることもあったけれど、どの意見もファッションショーを成功させたいという強い思いがあるからこそその発言であって、それを遠慮せず に共有できる環境があって、良かったと思います。一方で、ファッションショーの舞台のレベルはもっと高められると感じました。ウォーキングで表情、ポージングなどは ただの衣装の展示では表現できない、そのシーンの空間の雰囲気や衣装のポイントをアピールできるので、すごく重要だということに気がつきました。また、これからファッションショーをより良くする改善点としては、素材を魅せるということです。ただ播州織を使うだけでは、見ている方が良いなと思うような衣装は出来ないで、「播州織はいいな」と感じてもらえるようにもっと工夫していくことが必要だと思います。



・ 先輩のファッションショーをみていた時は、3年生になったら、技術が普通に身について、みんな普通にこなしているのかなと思っていました。でも、自分が3年生になって、実際に衣装を作り始めると、分からないことだらけで、先輩方のすごさがよくわかりました。あのファッションショーは、とてつもない努力があってこそなんだと改めて知りました。

・ 当日のファッションショーは、照明・音響・映像・カーテン・着替えの手伝いなど多くの2年生サポートがあって出来上がったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。リーダーを務めてくれた2人にも感謝したいです。周りのこともよく見れていて、一人ひとりに寄り添える素晴らしいリーダーだったと思います。私自身もっと2人の力になれたらよかったなと反省しています。みんなで創り上げたファッションショーは、私にとって最高の思い出になり、幸せな時間でした。ありがとうございました。



・大きいテーマを決めて 39 人が同じゴールを目指していた時間が私はすごく好きでした。うまくいかないし、何から手をつけたらいいかもわからないし、思うように進んだ約 5 ヶ月間ではなかったけど、みんなで乗りこえることができて本当に良かったです。この時間の中で、友だちという存在の大きさを強く感じだし、みんなの優しさに気づくことがたくさんできました。

・ 7 人程度がそれぞれシーン内で自分の理想のものを作ろうとすると統一感がなくなってしまい、ファッションショーでのシーンの衣装を作っている意味がなくなってしまう。シーンを作るためにはメンバー各々が自分の考えを共有していくこと、つまりコミュニケーション能力が大切だなと思った。自分のこだわりを通したい気持ちもあるけど、いい意味で妥協して、より良いものが作れるよう対話を重ねる、それこそが協働ということだなと分かった。



・ 去年は 見る側だったので、楽しく手拍子していたけど、魅せる側になった時、拍手や観声をもたらした時の特別感みたいな、楽しんでもらえたという実感がして、とても胸が熱くなりました。衣装を作るのは、予想はしていたけど、しんどく感じる事もありました。でもそれ以上に、みんなで励まし合ったり、他のクラスからすごかったよと言ってもらえたり、先生たちに応援してもらえたりして、人をつなげることができるのだということが学びました。



家庭クラブ (バザー)

2 年 たこせん

1 年 アリエッティ



365 コットン

▶▶▶▶▶ 6月15日 (日)

文化祭の翌日、
暑い中お疲れさまでした。

今回初めてコットン班の活動に参加しました。とても暑かったけど、達成感があり、とても楽しかったです。間引きでは、茎の太さや高さ、葉の様子を見ながらたくさん切ったため、コットンのつくりを深く知ることができました。暑くて大変でしたが、意外に楽しくてあっという間に時間が過ぎていました。また、是非次も参加したいです。

